

平成 29 年度「組体操・組立体操の幫助・補助法研修会」報告

工藤 亘

玉川学園・玉川大学
健康・スポーツ科学研究紀要
第 18 号

平成 29 年度「組体操・組立体操の帮助・補助法研修会」報告

工藤 亘*

1. はじめに

平成 28 年度に引き続き、玉川大学・玉川学園全学体育運営委員会および玉川大学教育学部健康教育研究センターデンマーク体操部会の主催で「組体操・組立体操の帮助・補助法研修会」を実施した。

その背景には、①玉川大学・玉川学園の体育科教員として組体操・組立体操の帮助・補助のスキルアップ、②安全教育の促進、③今年度の体育祭においても中学年・高学年・大学の合同体操で組体操・組立体操が導入されていることが挙げられる。

平成 28 年 3 月 25 日にスポーツ庁政策課学校体育室は「組体操等による事故防止について」を全国の各教育委員会に通知し、体育祭（運動会）での組体操等の実施は「確実な安全確保」を求めた上で、各学校の判断に委ねられている。

玉川大学・玉川学園では、組体操等による事故防止のために、組体操・組立体操の帮助・補助法研修会を毎年実施することにしたのである。

その目的は①組体操・組立体操の安全性をいっそう高めること、②年齢や発達段階に応じた帮助・補助法を確認すること、③他の教職員にも情報や帮助・補助法を共有し共通理解を図ること、④体育祭に向けて計画的・段階的に組体操・組立体操を指導することである。

2. 研修概要

日 時：平成 29 年 6 月 22 日（木）、17 時～19 時

場 所：玉川学園記念体育館柔道場

参加者：K-16 体育科教員（非常勤講師含む）18 名

講 師：工藤亘

目 的：①組体操・組立体操の帮助・補助法の確認及び安全対策、②組体操・組立体操の意義やねらいの確認③体育祭での組体操・組立体操の段階的指導の確認。

資 料：1. 組体操・組立体操・マスゲーム

2. 組体操の位置づけを考える

3. 帮助と補助

4. 平成 28 年度体育祭での組体操および組立体操のふりかえり

3. 実施内容

①H28 年度、体育祭にて実施した組体操・組立体操の指導法（指導段階）と帮助・補助法の確認。

主に中学年で実施したピラミッド・ウィングピラミッド（3 段）での乗降の仕方と手と膝を乗せる部位の確認。

ピラミッドの人選の仕方（体格と体力）等についてディスカッションを実施し、心身の発達段階や個々のモチベーション等に配慮することの重要性についての確認。

②今年度の体育祭に実施する予定の組体操・組立体操の指導法（指導段階）と帮助・補助法の確認。

主に高学年で実施する棒体操において、3 人組の内、土台（2 人）が立った状態で 2 本の棒を用い、その棒の上に 1 人が乗る組立体操を題材に演習形式で試行錯誤を繰り返した。

その結果、棒に乗る者が安定した姿勢でいられるための棒の組み方、土台役の立ち位置や棒の持ち方、棒に乗る者の安全な乗降の仕方について確認することができた。

またその際に必要な帮助・補助法の確認がすることができ、体育科教員のみではなく生徒同士での帮助・補助の仕方も検討することができ、非常に有意義な研修となった。

* 玉川大学教育学部